

(別紙2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年3月5日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3991200019
法人名	社会福祉法人 香南会
事業所名	グループホーム ゆうりこう
所在地	〒782-0035 高知県香美市土佐山田町百石町1-3-44
自己評価作成日	平成21年10月1日
評価結果市町村受理日	平成22年3月29日

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成21年11月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaigo.pippikochi.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3991200019&SCD=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所は、住宅地の中にあり、商店や美容院などが近隣に多く存在し利便性が高い。また、地域内に医療機関も点在しているので必要性があれば早期受診を行うことが可能である。

事業所の取り組みとしては、特に医療面のフォローを強化しており、入居者の日常的な健康管理をする上で、協力医による定期的な訪問診療及び入居者の状態について訪問看護ステーションの看護師に相談し、助言や指導をいただくなど、常に連携を取っている。

入居者に安心した生活を送っていただくため、グループホームでの生活が困難になった場合は、希望があれば法人内の介護保険施設等のサービスが利用できるようフォローアップ体制を整備している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者の殆どは地元出身であり、日常的な散歩や買い物時に地域住民と挨拶を交わし、友人、知人の訪問を受けたり、一緒に喫茶店に出かけるなど、これまでの関係が途切れることなく過ごしている。また、前回評価の課題項目にも積極的に取り組む姿勢があり、地域住民の見守り支援への協力や避難訓練への参加、協力を得るなど、地域の一員としての理解度も深まってきている。また、事業所では利用者が健康で安心して暮らせる支援に力点を置き、協力医療機関による定期的な往診や訪問看護等の活用など、医療連携体制を築くとともに、庭の畑で野菜を作り、利用者に収穫の喜び、食べる喜びを体感してもらうなど、理念である「笑顔あふれる心ゆたかな毎日」を積み重ねており、今後の運営に期待が持てるホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で、家族や知人、近所の人達と交流を行いながら、心豊かに安心した生活を継続して送れるよう職員全員で理念を作りあげている。	地域密着型サービスの独自の理念を作成しており、毎月の職員会議で理念の実践について振り返り、日々のサービス場面での気づきなどを話し合い、サービスの向上につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板の活用や、近所の美容院や郵便局、ホームセンター等を利用することで、地域の方々と触れ合う機会を多くもつよう努めている。また、行事の案内や地元の園児の訪問を受けるなど、交流している。	自治会に加入し、事業所の行事等も回覧板で知らせてもらっている。利用者は地元出身が多く、地域住民から野菜や花の差し入れをしてもらったり、保育園児や中学生と交流するなど、地域の一員として溶け込んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の事業所見学の受け入れを行い、認知症の人の理解や支援方法、グループホームについての説明を行っている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回継続して実施できている。取組み内容を報告し、構成メンバーから意見をもらいサービスに反映できるようにしている。	事業所から運営状況や評価結果と改善に向けた取組み等について報告し、利用者代表も短時間だが交代で参加する中で、意見交換をしているが、参加委員からの意見等は少ない。	運営推進会議は、事業所の報告等に対し参加委員から積極的に意見を出してもらい、双方向的な会議となるよう、テーマ等を工夫するなど検討されることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	協力関係を築くように取り組んでいるが、まだまだ不十分である。	運営推進会議を通じて事業所の状況を報告し、地域包括支援センターに利用者のケア等の相談を行っているが、行政担当課との関係はあまりできていない。	事業所の運営に当たっては、行政担当課とも日頃から協力関係を築いておくことが大切であり、運営推進会議をきっかけにするなど、事業所から気軽に何でも相談できる関係づくりに取り組むことを期待したい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で取り組んでいる。また、職員会などで話し合い、職員全員が認識している。日中は玄関を施錠せず、自由な暮らしを支援している。	新任職員研修や毎月の職員会議でマニュアルに沿った学習を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外出習慣のある利用者の所在確認を常に行い、利用者が外出した際はさりげなく見守っている。また、地域住民から見守りの協力も得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で取り組みを行い、学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体で取り組んでおり、職員会や勉強会等を通じて学んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の申し込み時や契約時に契約書に添った説明を行い、理解、納得していただいた上で入居している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の言葉や表情、態度からその思いや考えを察するよう努め、入居者主体の運営に心がけている。また、家族会を定期的開催し、意見交換を行ない、その意見や要望を職員会やカンファレンスにて話し合い日々のケアに活かしている。	利用者の意向は入浴中にゆっくり聞くなど工夫している。家族会と意見交換する中で、法人内の職員異動があり職員の顔が分からないといった声を受けて、職員の写真、氏名を掲示している。現時点で苦情は出されていないが、家族から出された意見等の記録がない。	家族からの意見、要望は、些細なことでも事業所として記録に残し、運営につなげていく取り組みを期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会で提案、意見を聞いている。また、日頃からコミュニケーションを積極的に図り、意見を出しやすいように心がけている。	職員会議では事業内容についての意見等も活発に出されている。また、職員の悩みを聞く機会として個人面談を実施するなど取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個人と面接をし、相談や話し合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び職員は、法人内外の研修会等に順次参加するようにしている。法人内にて教育部を新たに創設し、内部研修の充実を図っている。研修内容を、職員会等にて発表し、情報を共有化している。また、日々入居者と接する上で、働きながら学ぶことも多くある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内のグループホームとの交流や同業者と情報交換を通して、サービスの質が向上できるよう取り組んでいる。また、全国認知症グループホーム協会に加入し、研修会に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず本人と事前面接を行い、心身の状態把握や本人の思いを受容するよう努めている。また、可能な場合、家族と一緒に見学していただき、不安を少なくするよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、必ずご家族にお会いし、これまでの生活歴、申し込みに至る経緯等を聞き、困っていることや希望などを把握するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>早急な対応が必要な入居相談を受けた際は、法人内外とも連絡をとり、出来るだけの対応を行っている。また、担当のケアマネジャーや施設の相談員との連絡も随時行い、状況に応じた対応を行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者の言動や行動からその時の思いを探り、根本にある喜びや不安等を知ることにも努めている。また、料理や裁縫・畑作業など教えてもらいながら、助け合っている。</p>		
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>病院受診時や面会時等にて、日頃の本人の健康状態や日々の生活状況について報告し、情報を交換し、共有することで、本人を支えていくための協力関係を築いている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>昔から利用している美容院に通っている。知人や友人の訪問や家族と外出を行うなど継続的な交流ができるよう支援している。</p>	<p>事業所が住宅地にあるため、家族をはじめ、友人、知人の訪問が多い。馴染みの美容院や喫茶店に出かけたり、馴染みの商店での買い物など、これまでの関係を継続した支援をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係について、職員間で情報交換し、関係が円滑になるよう働きかけている。また、心身状態やその日の気分や感情で状態が変化することもあるため、常に注意し見守りや声掛けを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	気軽にホームに訪問していただけるよう声を掛け、必要に応じていつでも相談に応じる姿勢であることを伝え、状況に応じた相談や支援を行っている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中、本人の表情や行動、会話を通して希望や意向の把握ができるように努めている。また、家族の意向も聞いている。	家族の話や生き立ちを知ること、利用者の思いを把握するようにしている。特に、部屋で過ごす時や入浴時など二人きりでゆったりとできる時に、思いを聞き把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人とのコミュニケーションを通して、生活歴を把握するようにしている。また、家族や知人などの訪問時に可能な範囲でこれまでの生活環境を聞くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活リズムを理解し、日々の些細な変化も見逃さないよう支援している。また、本人の出来ることを把握し、継続できるよう支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会の前にカンファレンスを行い、入居者の現状に合わせた介護計画を作成している。また、本人、家族の意見も取り入れている。	職員の気づきや、利用者、家族の意見等も聞いたうえでカンファレンスを行い、介護計画を立てている。6カ月毎の見直しを基本としているが、入居者の状況や評価に基づいてその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に食事、排泄、水分、服薬、身体状況、日々の暮らしの様子や言葉などを記録している。また、職員間で情報を共有するために、申し送りノートを活用し、出勤時には、職員が確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等の必要な支援は柔軟に対応している。また、医療連携体制等を活かし、本人や家族が安心して生活できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署等と協力しながら、総合避難訓練や救命講習の受講を行っている。また、保育園や中学校へ交流なども呼びかけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。また、通院については家族同行をお願いしているが、不可能な時や緊急時は職員が付き添っている。協力医に毎月訪問診療に来てもらっている。	かかりつけ医の継続は出来ている。通院介助は基本的に家族としているが、状況に応じて職員が同行している。受診結果は受診ノートや申し送りノートで共有している。また、月1回の協力医の往診や月2回の訪問看護を受けている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調変化が見られた際には、事業所の看護職員と相談を行いながら、訪問看護ステーションの看護師に随時連絡し、指導・助言・対応を行ってもらっている。また、看護師と医療機関との連携も密にとれており、日頃から気軽に相談できる関係が築けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院のソーシャルワーカーや看護師、家族との連絡を密にとり、出来るだけ早期に退院できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>法人で重度化した際の指針や看取り介護に関するマニュアルを定めており、入居時に本人、家族に説明している。また、協力医やかかりつけ医との連携も密にとれている。</p>	<p>看取りの指針も出来ており、家族には入居時に説明し同意を得ている。看取りの事例はないが、家族等の希望に沿って、医療機関と連携しながら、対応する体制の準備はできている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署の協力を得て、普通救命講習Ⅱ（AED）の研修を（2年1回）受講している。また、応急手当や応急処置の学習も随時行っている。</p>	/	/
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力を得て、入居者や地域住民と共に、通報・避難・消火訓練を年2回行っている。また、緊急連絡網を使用した夜間呼集訓練も年2回行っている。</p>	<p>年2回の通報、避難、消火訓練を地域住民や隣の郵便局の参加、協力を得て実施している。非常用食料等の準備もできている。</p>	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>入居者や家族のプライバシーの保護の徹底について、毎月の職員会にて随時話し合い職員の意識向上に努めている。</p>	<p>人格の尊重、プライバシーの保護について、新任研修をはじめ、毎月の職員会議でもテーマとして取り上げ、職員の意識向上に努めている。特に、年長者として敬意を払うよう気をつけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、本人の言動や行動、会話を通して意向の把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の関わりを通して、本人の会話や行動、表情から気持ちを読み取り、本人の希望に添った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせ、化粧やおしゃれ（外出時や行事時の衣類等）を楽しんでもらえるような取り組みをしている。本人希望の美容院に通い、髪染めやパーマができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が共に食事の準備や食事、後片付けなどを行っている。また、畑で野菜を栽培し、入居者と一緒に収穫し、調理を楽しめるよう支援している。	敷地内の畑で採れた野菜を食材として活用することを喜びとし、利用者は、好みや能力を活かして、職員と一緒に調理の下ごしらえや配膳、後片付けをしている。	職員は法人の方針もあり利用者と一緒に食事をしていないが、そうしたなか、事業所の特性を踏まえて利用者と職員が食事を楽しめる環境づくりについて、職員全員で話し合うことを期待したい。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事チェック表にて、摂取量・カロリー・水分摂取量を記載、確認を行っている。摂取量が少ない場合などは、声掛けや促しを行っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の歯磨きやうがい、義歯洗浄の声掛けをし、できない人には歯磨きや義歯の洗浄の手伝いを行い、口腔内の清潔に努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄パターンを把握し、トイレで気持ちよく排泄ができるように、個々に合わせた声掛けや誘導を行っている。</p>	<p>排泄チェック表で排泄パターンを把握し、昼間はトイレで排泄するよう誘導支援を行っている。利用者によって、夜間のみ紙パンツを使用したり、ポータブルトイレを利用するなど、排泄の自立に向けて支援している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便チェック表を作成し、排便状態の確認を行っている。野菜や水分を十分摂取できるよう支援している。また、体操等で身体を動かす機会を多くとるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望する時間（午前風呂）に入浴していただいたり、シャンプーやリンス等も好みの物を使用していただいている。一人ひとりの気持ちや習慣に合わせた支援をしている。	利用者の生活習慣や希望を大切にし、朝ゆっくり入浴したい利用者への対応や、入浴を拒む利用者にも二日に1回は入浴できるように、柔軟に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できる限り、日中の活動を促し生活リズムを整えるように努めている。また、一人ひとりの体調や希望などを考慮し、日中に安静時間を取る等の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルにて管理し、職員が服薬中の薬を把握できるようにしている。また、受診時の内容や薬の処方、薬の容量等が変更した場合は、受診記録や申し送りノートに記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来ることや好きな作業等を見つけ出し、職員と一緒に作業したり、畑で収穫した野菜を使った食事作り等、入居者の経験や知識を發揮できるように支援している。干し柿や干し大根、ラッキョウ漬けを作る時は、作り方を聞きながら一緒に作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の体調や希望に応じて、散歩やドライブ等に出かけている。畑を見に行ったり庭で日光浴をすることもある。	車の通行の比較的少ない山手側を選んで毎日散歩したり、広い駐車場も日光浴の絶好の場として利用している。毎月行楽を兼ねたドライブや外食を計画し、家族の参加も得ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、家族や事業所が管理している。買い物や外出時は直接支払いができるよう支援している。また、家族の協力を得て、小額の金額を管理している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に電話しやすい雰囲気づくりをしている。また、1階のせせらぎ棟に電話を設置し、電話出るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらえるように、季節毎の生花を生けたり、カレンダーを掛けている。食堂や廊下、階段の飾りは、入居者と一緒に制作した作品を飾っている。	柿のちぎり絵や、菊やコスモスの生花を活け、季節感を採り入れている。広いリビングは日当たりも良く、体操や音楽療法を行ったり、畳の部屋では利用者と職員と一緒に洗濯物を整理するなど、家庭的な共用空間となっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関ホールや階段の踊り場に椅子等を置き、絵画や観葉植物などで装飾し居心地の良い空間作りを行っている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居前の説明や入居時に、使い慣れた物や好みの物を持参していただくよう話しをしている。また、入居者の方と相談しながら居心地良い居室作りを行っている。</p>	<p>使い慣れた馴染みの家具等を置くことで、利用者が安心して居心地よく過ごせる居室づくりをしている。家族の協力も得て、安全を重視しつつ個人の好みを尊重している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全に作業できるようにソファやテーブルの配置を工夫している。また、その人の能力に合わせた道具（ほうきや塵取り、洗濯物を干す為のハンガーかけなど）を使用している。</p>		

V アウトカム項目		ユニット名	やまびこ棟
項 目		該当するものに ○印	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

項 目		該当するものに ○印	取り組みの成果
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
		○	3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で、家族や知人、近所の人達と交流を行いながら、心豊かに安心した生活を継続して送れるよう職員全員で理念を作りあげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板の活用や、近所の美容院や郵便局、ホームセンター等を利用することで、地域の方々と触れ合う機会を多くもつよう努めている。また、行事の案内や地元の園児の訪問を受けるなど、交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の事業所見学の受け入れを行い、認知症の人の理解や支援方法、グループホームについての説明を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回継続して実施できている。取組み内容を報告し、構成メンバーから意見をもらいサービスに反映できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	協力関係を築くように取り組んでいるが、まだまだ不十分である。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で取り組んでいる。また、職員会などで話し合い、職員全員が認識している。日中は玄関を施錠せず、自由な暮らしを支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で取り組みを行い、学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体で取り組んでおり、職員会や勉強会等を通じて学んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の申し込み時や契約時に契約書に添った説明を行い、理解、納得していただいた上で入居している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の言葉や表情、態度からその思いや考えを察するよう努め、入居者主体の運営に心がけている。また、家族会を定期的を開催し、意見交換を行ない、その意見や要望を職員会やカンファレンスにて話し合い日々のケアに活かしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会で提案、意見を聞いている。また、日頃からコミュニケーションを積極的に図り、意見を出しやすいように心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個人と面接をし、相談や話し合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び職員は、法人内外の研修会等に順次参加するようにしている。法人内にて教育部を新たに創設し、内部研修の充実を図っている。研修内容を、職員会等にて発表し、情報を共有化している。また、日々入居者と接する上で、働きながら学ぶことも多くある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内のグループホームとの交流や同業者と情報交換を通して、サービスの質が向上できるよう取り組んでいる。また、全国認知症グループホーム協会に加入し、研修会に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず本人と事前面接を行い、心身の状態把握や本人の思いを受容するよう努めている。また、可能な場合、家族と一緒に見学していただき、不安を少なくするよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、必ずご家族にお会いし、これまでの生活歴、申し込みに至る経緯等を聞き、困っていることや希望などを把握するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な入居相談を受けた際は、法人内外とも連絡をとり、出来るだけの対応を行っている。また、担当のケアマネージャーや施設の相談員との連絡も随時行い、状況に応じた対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の言動や行動からその時の思いを探り、根本にある喜びや不安等を知ることにも努めている。また、料理や裁縫・畑作業など教えてもらいながら、助け合っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診時や面会時等にて、日頃の本人の健康状態や日々の生活状況について報告し、情報を交換し、共有することで、本人を支えていくための協力関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院に通ったり、友人と喫茶店に出かけたりしている。また、知人や友人の訪問や家族と外出を行うなど継続的な交流ができるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係について、職員間で情報交換し、関係が円滑になるよう働きかけている。また、心身状態やその日の気分や感情で状態が変化することもあるため、常に注意し見守りや声掛けを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	気軽にホームに訪問していただけるよう声を掛け、必要に応じていつでも相談に応じる姿勢であることを伝え、状況に応じた相談や支援を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中、本人の表情や行動、会話を通して希望や意向の把握ができるように努めている。また、家族の意向も聞いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人とのコミュニケーションを通して、生活歴を把握するようにしている。また、家族や知人などの訪問時に可能な範囲でこれまでの生活環境を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活リズムを理解し、日々の些細な変化も見逃さないよう支援している。また、本人の出来ることを把握し、継続できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>職員会の前にカンファレンスを行い、入居者の現状に合わせた介護計画を作成している。また、本人、家族の意見も取り入れている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別に食事、排泄、水分、服薬、身体状況、日々の暮らしの様子や言葉などを記録している。また、職員間で情報を共有するために、申し送りノートを活用し、出勤時には、職員が確認するようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等の必要な支援は柔軟に対応している。また、医療連携体制等を活かし、本人や家族が安心して生活できるように支援している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>消防署等と協力しながら、総合避難訓練や救命講習の受講を行っている。また、保育園や中学校へ交流なども呼びかけている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。また、通院については家族同行をお願いしているが、不可能な時や緊急時は職員が付き添っている。協力医に毎月訪問診療に来てもらっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調変化が見られた際には、事業所の看護職員と相談を行いながら、訪問看護ステーションの看護師に随時連絡し、指導・助言・対応を行ってもらっている。また、看護師と医療機関との連携も密にとれており、日頃から気軽に相談できる関係が築けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院のソーシャルワーカーや看護師、家族との連絡を密にとり、出来るだけ早期に退院できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人で重度化した際の指針や看取り介護に関するマニュアルを定めており、入居時に本人、家族に説明している。また、協力医やかかりつけ医との連携も密にとれている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、普通救命講習Ⅱ（AED）の研修を（2年1回）受講している。また、応急手当や応急処置の学習も随時行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、入居者や地域住民と共に、通報・避難・消火訓練を年2回行っている。また、緊急連絡網を使用した夜間呼集訓練も年2回行っている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者や家族のプライバシーの保護の徹底について、毎月の職員会にて随時話し合い職員の意識向上に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、本人の言動や行動、会話を通して意向の把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の関わりを通して、本人の会話や行動、表情から気持ちを読み取り、本人の希望に添った支援を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせ、化粧やおしゃれ（外出時や行事時の衣類等）を楽しんでもらえるような取り組みをしている。本人希望の美容院に通い、髪染めやパーマができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が食事の準備や後片付けなどを行っている。味付けの意見など聞き、調理に取り入れている。また、畑で野菜を栽培し、入居者と一緒に収穫し、調理を楽しめるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表にて、摂取量・カロリー・水分摂取量を記載、確認を行っている。摂取量が少ない場合などは、声掛けや促し、介助を行っている。摂取量が低下している方には捕食など、家族に相談しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きやうがい、義歯洗浄の声掛けをし、できない人には歯磨きや義歯の洗浄の手伝いを行い、口腔内の清潔に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレで気持ちよく排泄ができるように、個々に合わせた声掛けや誘導を行っている。トイレも分かりやすいように表示している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成し、排便状態の確認を行っている。野菜や水分を十分摂取できるよう支援している。また、体操等で身体を動かす機会を多くとるようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望する時間（午前風呂）に入浴していただいたり、シャンプーやリンス等も好みの物を使用している。一人ひとりの気持ちや習慣に合わせた支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できる限り、日中の活動を促し生活リズムを整えるように努めている。また、一人ひとりの体調や希望などを考慮し、日中に安静時間を取る等の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルにて管理し、職員が服薬中の薬を把握できるようにしている。また、受診時の内容や薬の処方、薬の容量等が変更した場合は、受診記録や申し送りノートに記載している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と一緒に作業したり、畑で収穫した野菜を使った食事作り等、入居者の経験や知識を発揮できるよう支援している。干し柿や干し大根、ラッキョウ漬けを作る時は、作り方を聞きながら一緒に作っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の体調や希望に応じて、散歩やドライブ等に出かけている。畑を見に行ったり庭で日光浴をすることもあ		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、家族や事業所が管理している。買い物や外出時は直接支払いができるよう支援している。また、家族の協力を得て、小額の金額を管理している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に電話しやすい雰囲気づくりをしている。また、少し離れた場所に電話を設置し、他の入居者に話が聞こえないよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節を感じてもらえるように、季節毎の生花を生けたり、カレンダーを掛けている。食堂や廊下、階段の飾りは、入居者と一緒に制作した作品を飾っている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関ホールや階段の踊り場に椅子等を置き、絵画や観葉植物などで装飾し居心地の良い空間作りを行っている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居前の説明や入居時に、使い慣れた物や好みの物を持参していただくよう話しをしている。また、入居者の方と相談しながら居心地良い居室作りを行っている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全に作業できるようにソファやテーブルの配置を工夫している。また、その人の能力に合わせた道具（ほうきや塵取り、洗濯物を干す為のハンガーかけなど）を使用している。</p>		

V アウトカム項目		ユニット名：	せせらぎ
項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない

項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない